

河童のやんたろう

第39回市民の舞台・遠野物語ファンタジー「河童のやんたろう」は
2月22・23の両日、市民センター大ホールで上演されました。
延べ1800人の観客は、感動の舞台に涙しました。

今作は、綾織町を流れる猿ヶ石川が舞台。同町に伝わるカッパ伝説などに着想を得て、高橋好子さん(66歳)Ⅱ同町Ⅱが初めて原作を手掛けました。脚本は赤坂康紀さん(48歳)Ⅱ大工町Ⅱが書き上げ、小林立栄さん(38)Ⅱ六日町Ⅱが初めて演出を担当。子どもが主役の元氣いっぱいの舞台が繰り広げられ、河童の明るくも切ない物語に、観客は涙を流しました。

今作に携わったキャストや大道具、美術などのスタッフは総勢370人。昨年11月から準備を始め、一丸となつて舞台づくりに励みました。当日は、ファンタジーミュージックアンサンブルによる生演奏や合唱が舞台を盛り上げ、バレエスタジオや一輪車クラブ、郷土芸能の華麗な舞が物語を引き立てました。クライマックスでは、自分を犠牲にして両親の命を救おうとするやんたろうの姿が、観客の涙を誘いました。

あらすじ

雨乞いの腕が認められ、村に住みついた流れ者の子、やんたろう。ひよんなことから河童と仲良くなり、河童の世界へ家出する。しばらくして、再び村を日照りが襲い、雨を降らせられなかった責任を取り、両親が人柱になることに。河童とは、自分の親を助けるために命を失った子どもの魂のこと。両親の命を救うため、やんたろうは龍神様をお願いして、自分の魂と引き換えに雨を降らせてもらう。

写真／両親を守るため、弥太郎が自分の命と引き換えにカッパになる場面



おつかあさ、あいてえなあ。

1_おなじみのコンビ。今作はツブ役として登場 2_庄屋と神主の軽快な掛け合い 3_弥平のおかしな雨乞いに会場は大笑い 4_子どもたちの元氣な演技が舞台上で繰り広げられた 5_初参加の一輪車クラブはアメンボ役として華麗な演舞を披露 6_かわいらしい河童たち。今作はたくさんの子どもが出演 7_美しい舞で物語を引き立てたバレエスタジオのメンバー 8_河童の正体とは…。核心に触れる水蜘蛛の姿 9_河童になった弥太郎の元へ、母親からきゅうりと一緒に手紙が流されてくる。感動の場面に、観客は涙をぬぐった 10_舞台を盛り上げたファンタジーミュージックアンサンブルの皆さん 11_綾織町の遠野郷南部田植え踊り保存会も出演 12_ファンタジーの歌を全員で歌いフィナーレ



主演(やんたろう)
小林 裕太郎 君
遠野小4年
緊張して、しっかりセリフが言えるか不安だったけど、最後までやりきることができてうれしいです。次のファンタジーにも挑戦してみたいです。

演出
小林 立栄 さん
38歳Ⅱ六日町Ⅱ
初めての経験で悩むこともありましたが、多くの人に支えられ完成させることができました。子どもたちの持つ無限の力に励まされた3か月でした。



親子で演出と主演に挑戦

原作
高橋 好子 さん
66歳=綾織町=
想像以上のすばらしい舞台に、私も感動しながら観させてもらいました。子どもたちの元氣な演技が、きつと観客の皆さまにも届いたことでしょうか。